



'秋風にゆれるコスモス'

## 患者さんの権利

- |                             |                                  |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利      | 5 常に人としての尊厳を守られる権利               |
| 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利                 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利         | 7 繼続して一貫した医療を受ける権利               |
| 4 プライバシーが守られる権利             | 8 生活の質 (QOL) や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

## CONTENTS

- ② ケニア共和国における二つの国際協力～その心は～
- ④ プレアボイド報告件数が  
平成22年度国立病院機構内で全国第1位になりました
- ⑤ 檢査項目のご案内
- ⑥ 患者様への行事食 Vol.2

- ⑥ 職場体験を受けて
- ⑦ オープンキャンパスを終えて
- ⑧ 外来診療担当医表
- ⑨ 編集後記



# ケニア共和国における二つの国際協力 ～その心は～

院長 古賀満明

我々夫婦がケニア共和国の人々と交流をもって、早くも20年が経過した。今年7月夏期休暇を利用して、私にとっては11年ぶり8回目、妻にとっても8年ぶり13回目となるケニア訪問を行った。私の最初の訪問は、1991年前任地である国立長崎中央病院（現NHO長崎医療センター）から、ケニアで実施されている肝炎対策へJICA専門家としての派遣であった。1年間を超える長期派遣だったため、家族（妻と娘）を伴うことになり、私個人だけでなく家族の人生をも大きく変えることになった。私は1月17日の沿岸戦争開戦の翌日出発し、任期の1年1ヶ月で帰国となつた。家族は、当時大村高校の1年生であった娘が1学年の終わる3月を待つて出発し、妻は後述するスラムの女性たちへの支援活動のため、娘はケニアにあるイギリス系の学校を卒業するため、帰国を延期し二人だけでの3年半の長期滞在となつた。

私の派遣目的は、1979年に始まったJICA（国際協力機構）とKEMRI（ケニア中央医学研究所）の二国間協力への参画であった。（図1）1990年新たに始まったケニア共和国感染症対策プロジェクトに前任施設が参画することになり、第一陣として私が派遣され

た。前プロジェクトではB型肝炎診断試薬の基礎的技術移転が完了し、血液スクリーニングがパイロット的に試行されていた。我々のプロジェクトではB型肝炎診断試薬（KEMRI HEPCELL）の完全現地生産体制を確立し、量産体制を築くことによって、ケニア全域の主要血液銀行でB型肝炎に対する血液スクリーニングを実施できる体制を構築した。診断試薬製造のための技術移転は、熊本にある化学及び血清研究所（化血研）の城野短期専門家によって達成され、この診断試薬は、The New Kenya Trade Exhibitionで最優秀賞に輝いた。並行して、ケニア全域の血液銀行から検査技師を集め、感染予防の啓蒙と測定技術の研修を実施した。（図2）その後は、ケニア政府で自立的に運営されている。活動の内容を詳しく知りたい方は、院内ホームページ「院長室」に掲載した派遣最終報告書、院外の方はJICAホームページに掲載してある「ケニア感染症プロジェクトの足跡」

<http://www.jica.go.jp/project/kenya/5151130E0/news/sonota/060714.html>  
を参照されたい。

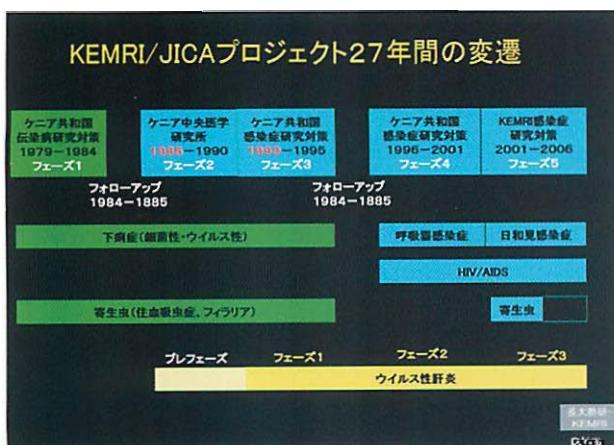


図1：KEMRI/JICAプロジェクトの全容

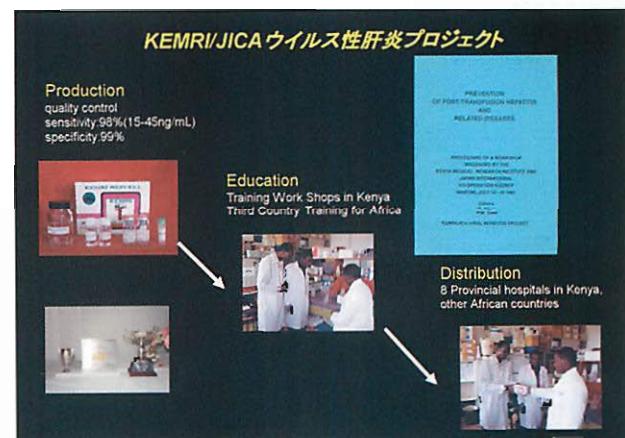


図2：肝炎プロジェクトの概要



もう一つの国際協力とは、妻がケニアで取り組み、帰国後も継続している支援活動である。専業主婦であった妻は、当時商社の奥さんたちがナイロビ市内にあるスラムの女性たちのグループへ支援活動していく「アサンテ（スワヒリ語で有難う）の会」に参加することになった。参加している間に、単なるモノの支援には飽き足らず、彼女たちの自立に向けた支援活動に取り組むことになった。当時の佐藤ギン子ケニア大使（我が国4人目の女性大使）の助力で、外務省の草の根資金をもらうことができ、スラムの中に洋裁工房を建設することになった。ケニア政府との粘り強い交渉で、100年間の無償借地権を得、建設に取り掛かった。工房の建設は2年を要し、完成を待って日本に帰国した。帰国後、「スラムの女性たちの自立を支援する会」を立ち上げ、長崎県では初となる郵政省のボランティア預金を3年間受領して運転資金を支援し、その後はJICAの貧困層の生活改善活動のプロジェクトへの協力を依頼され、商品開発と販売路の開拓支援を行った。今回久しぶりにその工房を訪ねたが、歌と踊りでの大歓迎を受け、事業も順調に運営されているのを確認することができた。現在、妻が我が家敷地内に支援事

務局と商品販売のための店 Jua Salama（スワヒリ語で輝く太陽）を構えている。インターネットで、ジュアサラーマと検索してみてください。

二つの国際協力に共通することは、相手となる人あるいは組織なりを、自立させるための財政的、技術的支援活動という点である。途上国では援助されることは当たり前という風潮がある。しかし、人の命に限りがあるように、援助も永遠には続かない。援助に頼りきっていると、援助が断ち切られた時、援助されていた時の感謝の気持ちは消え失せ、打ち切られたことへの不満のみが残ることになる。これを回避するには、支援の立ち上げ時には相手の意思を尊重した事業を取り上げ、支援事業の遂行には自助努力を促し、支援の期間は事業が自立可能と判断されるまで継続させることが必要である。ただ、究極的には支援する側と支援される側という関係を超え、人種もを超え、地位や肩書もを超え、人と人との信頼関係の醸成に尽きたと考える。久しぶりに人類発祥の地とされるケニアを訪ね、改めて人と人、人と社会との絆を考えさせられる旅でした。

(宋満)



図3：当時のケニアの新聞記事より



図4：今回訪れたスラムにある工房前で





## プレアボイド報告件数が 平成22年度 国立病院機構内で 全国第1位になりました

薬剤科 副薬剤科長 黒木尚美

当院薬剤科では患者の安全と医療事故防止の視点で、薬剤科内の業務及び病棟業務に取り組んでいます。そのプレアボイド報告とは、“薬剤師が日常的に行ってい る患者の薬学的管理を通じて、副作用の未然回避・重 篤化回避、患者に対する不利益回避を目的とする、病 院薬剤師の活動報告のことである。”と定義づけられ、薬剤師固有の業務の中でも大切なものとして全国の薬 剤師が取り組んでいます。内容は、たとえば患者との コミュニケーションにより、副作用の初期症状を疑い 主治医に報告し軽症で経過した。持参薬や常用の健康 食品の中から、治療に不適切なものを発見した。服用 せずに隠している薬を発見し、理由を尋ね剤形の変更 や服用時間の変更などにより服薬コンプライアンスが 良くなったり。患者の症状や検査結果、処方内容からの 薬物間相互作用や副作用の推測など多岐にわたります。

日本病院薬剤師会では平成 11 年度から報告事例の 収集を開始し、同年の年間報告件数は全国で 2,031 件 でした。

当薬剤科では平成 17 年度から積極的に取り組みを 開始しました。当初年間 6 件の報告から始まり、平成 20 年度には年間報告件数 125 件となり九州管内では

とびぬけた報告件数で、常にトップを維持してきました。[表 1 参照](#)

平成 21 年度は 147 件と全国 13,869 件の内 1% 強 を占めるまでとなりました。しかしながら機関全体では第 2 位にとどまっていました。

昨年平成 22 年度、報告件数では前年度を下回った ものの国立病院機構内で全国「第 1 位」を獲得する事 が出来ました。[表 2 参照](#)

この事は報告件数を増やすことに主眼を置いたもの ではなく、日常的に患者の安全確保と医療事故防止の 視点で業務に取り組み、副作用の未然回避・重 篫化回避できた事例はもれなく報告を行っていこう、という 薬剤科職員一人ひとりの地道な業務により成し得たこ とであると思います。また副作用を未然に防ぐと格好 の良い事を言っても、日々の研鑽がなければ見逃して しまう事もあると思います。

「第 1 位」を得た事を誇りに思い、今後も患者の安 全と医療事故防止に嬉野医療センター医療チームの一 員として参画し続けられるように、よく学び（且つよ く遊べ）をモットーに業務に取り組みたいと思います。

表 1

プレアボイド報告件数				
(平成 20 年度～平成 22 年度)(九州管内機関)				
順位	施設名	20 年度	21 年度	22 年度
1	嬉野医療	125	147	130
2	九州医療	0	64	48
3	大牟田	0	0	15
4	九州がん	4	0	2
5	南九州	6	3	0
	その他	7	28	20
総計		142	242	215

表 2

プレアボイド報告件数				
(平成 20 年度～平成 22 年度)(国立病院機構)				
順位	施設名	20 年度	21 年度	22 年度
1	嬉野医療	125	147	130
2	長良医療	177	171	106
3	京都医療	40	44	106
4	岩国医療	98	59	43
5	福山医療	44	56	14



## 検査項目のご案内

検査科 血液主任 東 千恵

皆様、お疲れ様です。7月から新しく『P-AMY』、『eGFR』が検査項目に追加され、そのご紹介をしたいと思います。どうぞ診療の方にお役立て下さい。

『P-AMY（脾型アミラーゼ）』は脾酵素逸脱現象の増減から各種の脾疾患、total-AMYと併用することで唾液腺疾患だけでなく腹部疾患、マクロアミラーゼ血症などの診断上重要な指標となります。また脾炎を伴わないS型（唾液腺由来）優位の高アミラーゼ血症の判別もでき、急性脾炎で発症2～12時間で急激に上昇してピークに達し、3～4日で正常域に回復します。代表的な疾患ではP型の増加では脾臓炎や脾頭部ガン、脾管障害、慢性脾炎再燃時、マクロアミラーゼ血症などがあります。

S型が増えている場合は、唾液腺疾患、外科手術後、肝胆道疾患、あたふくかぜ、シェーグレン症候群、肺や前立腺・卵巣・子宮の悪性腫瘍などで上昇することもあります。

『eGFR（糸球体濾過量）』は年齢、血清Cr値、性別を用いて腎臓の働きを算出したものです。腎機能異常を疑う場合や、その経過観察と腎機能のスクリーニング検査して、非常に簡便であり、有用です。また、日本腎臓学会から腎臓の最も基本的な働きは血液を糸球体で濾過することであり、これによってできる濾液の量（GFR）が腎臓の機能（酸塩基平衡・エリスロポエチンの産生・ビタミンDの活性化など）とあわむね良く相関することから、腎臓の機能指標としてふさわしいと考えられ、推奨されています。

慢性腎臓病（CKD）の重症度の判定としてeGFRが使用されています。

STAGE	重 症 度	進行度による分類 GFR (mL/min/1.73m <sup>2</sup> )
I	腎機能障害はあるが、GFRは正常又は亢進	90以上
II	GFR軽度低下	60～90未満
III	GFR中等度低下	30～60未満
IV	GFR高度低下（腎不全）	15～30未満
V	末期腎不全	15未満

しかし、急性腎不全や年齢（小児、超高齢者）、体格（極端な痩せ又は肥満）、筋肉量の違い、クレアチニン摂取異常などでGFR推算式が適応できない状態があります。また、糖尿病性腎症の初期では一時的に上昇することがありますので、ご注意ください。



## ☆患者様への行事食☆

Vol. 2

栄養管理室長 佐藤恭子

4月に昨年度の行事食に関する報告をさせて頂きましたが、今年度も栄養管理室の目標の一つに「バラエティーに富んだ楽しみのある食事を提供する」と挙げて取り組みを行っています。今回、また新しいメニューを1つ提供することが出来ましたので、ご報告させて頂きます。

今年度に入り、5月2日の「八十八夜」には新茶（もちろん嬉野茶です）とお茶菓子として佐賀の名菓丸ボーグ、5月5日の「子どもの日」には子どもの大好きなハンバーグやプリンをメッセージカードと共に提供致しました。ここまで例年提供している行事食なのですが、今回の新メニューは7月7日の七夕に提供した「ちらし寿司」です。当院では初めて提供するメニューで、七夕にちなんで人参を星に見立てて盛りつけを行いました。フルーツには、夏の定番すいか（今年は例年より価格が高かったのですが…）を奮発し提供しました。

今後も少しずつではありますが、行事食や新メニューを増やして患者様に喜んで食べて頂ける様、栄養管理室一同頑張っていきたいと思います。



## 職場体験を受けて

西2病棟看護師 渡邊雅子

今回、看護師志望の中学生の職場体験を受けました。担当した中学生は、何をするにも「楽しい」との反応があり、一緒に洗髪やりハビリへの車椅子護送、患者様とのコミュニケーションを多く持てるように関わりました。中学生との関わりは、自分が看護師になった時の事を思い出させてくれました。看護師になった時の喜びや患者様との関わりは何をしても新鮮であり楽しかったように思います。今回の職場体験を通して改めて、初心を忘れずに、看護を行っていきたいと感じました。また少しでも担当した中学生に看護の楽しさを実感してもらえた事はよかったです。今の気持ちを忘れずに、看護師を目指してほしいと願っています。



患者様、学生さんには掲載許可を頂いております



# オープンキャンパスを終えて

看護学校教員 長島 七

8月10日(水)第2回オープンキャンパスを開催しました。76名と例年よりも多くの参加者があり、終始賑やかに進行しました。

今回は、1、2年生の在学生8名の協力のもと、下記のスケジュールに沿って行われました。公開講座では、血圧についての講義の後、グループに分かれて実際に血圧測定を行いました。参加者のほとんどが初めての体験のため、聴診器を硬く握りしめ、音を聞き漏らすまいと真剣に、また緊張した面持ちで上下する拍動を見ていきました。最初は首をかしげている姿が多く見られましたが、在学生や教員のアドバイスのもと何度も挑戦し、測定できた時には感激の声をあげていました。その後、在学生と共に、学校案内、教材見学、高齢者や妊婦体験を行い、最後に、在学生や教員を交えての質問や意見交換を行いました。参加者からは、「内容が興味深いものばかりでもっと知りたいと思った」「質問しやすい雰囲気でわかりやすく答えてもらえて嬉しかった」「迷っていたが看護師になりたいという気持ちが強くなった」「入学への気持ちが高まった」等の感想を聞くことができました。10時から12時30分という短い時間でしたが、看護への興味が更に高まった参加者が多くいたことを嬉しく思います。

今後は、10月14日(金)嬉看祭、H24年3月24日(土)に行う予定です。本校に興味のある方、看護師を目指している方など周りにいらっしゃいましたら、どうぞご案内下さい。お待ちしております。



## スケジュール

10:00 ~ 10:10	オリエンテーション
10:10 ~ 10:20	説明「看護師の仕事について」
10:20 ~ 10:40	学校説明
10:40 ~ 10:45	休憩
10:45 ~ 11:25	公開講座・演習「血圧を測ってみよう」
11:25 ~ 12:25	グループに分かれて ・教材見学 ・学校案内 図書室、自習室、情報科学室、更衣室、ゼミ室 ・質問・意見交換
12:25 ~ 12:30	アンケート記入

**嬉野医療センター・外来診療担当医表**

区分	月	火	水	木	金
呼吸器内科	午前	副島 佳文 澤井 豊光	中野 浩文	副島 佳文 行徳 宏	澤井 豊光
消化器内科	午前	白石 良介(消化管) 大座 紀子(肝臓)	綿田 誠司(消化管) 有尾 啓介(肝臓) 角川淑子(肝臓・消化管)	福田 浩子(消化管) 角川淑子(肝臓・消化管)	綿田 誠司(消化管) 白石 良介(消化管) 有尾 啓介(肝臓)
循環器内科	午前	荒木 究 二宮 晴代	室屋 隆浩	二宮 晴代	室屋 隆浩 二宮晴代(ベースメーカー)
心臓血管外科	午前		力武 一久 大西 裕幸		力武 一久 大西 裕幸
糖尿病内科	午前		田中 史子		田中 史子
リウマチ科	午前	河部庸次郎		荒武弘一朗	荒武弘一朗
神経内科	午前			溝田 貴光	溝田 貴光
腎臓内科	午前		中沢将之(整形で診察)		中沢将之(整形で診察)
小児科	午前	小野 晋康	西村 真二 江頭 政和	佐藤 忠司	西 奈津子
	午後	佐藤 忠司 小野 晋康 (診察 14:00 ~ 16:00)	乳児検診(完全予約制) (診察 14:00 ~ 16:00)	小児神経 第3水曜 (診察 14:00 ~ 16:00) 循環器外来 第1・3水曜 (診察 13:00 ~ 16:00)	小児腎臓外来 第2木曜 内分泌外来 第3木曜 小児アレルギー第4木曜 (診察 14:00 ~ 16:00)
外科	午前	岡 忠之 ①②④	古川 克郎 ①②④	荒木 政人 ①③	柴崎 信一 ①③
	午後	岡忠之・古川克郎(乳腺外来) (受付 13時半~15時)(完全予約制)			武岡 陽介 濱田 聖暁 ①③
整形外科	午前	村田 雅和 森口 昇 坂井 達弥	小河 賢司 田中 尚洋 井上 拓馬	古市 格 村田 雅和 田中 尚洋	小河 賢司 森口 昇
脳神経外科	午前	前田 一史	宮園 正之		古市 格 井上 拓馬 坂井 達弥
皮膚科	午前	大仁田亜紀(新患) 大久保佑美(再来)	大久保佑美(新患) 大仁田亜紀(再来)	大仁田亜紀(新患) 大久保佑美(再来)	大仁田亜紀(新患) 大久保佑美(再来)
泌尿器科	午前	谷口 啓輔(再来) 青木 大勇(新患)	谷口 啓輔(新患) 青木 大勇(再来)		谷口 啓輔(新患) 青木 大勇(再来)
	午後	予約外来			予約外来
婦人科	午前	一瀬 俊介	濱口 大輔		一瀬 俊介
	午後	藤原恵美子 助産師外来(14時~16時) (完全予約制)	一瀬 俊介	助産師外来(9時~16時) (完全予約制)	濱口 大輔 藤原恵美子
眼科	午前	村田和久(予約制)	村田和久(予約制)	村田和久(予約制)	村田和久(予約制)
	午後				
耳鼻咽喉科	午前	吉田 晴郎(再来) 畠地 廉輔(新患)	吉田 晴郎(新患) 畠地 廉輔(再来)		吉田 晴郎(再来) 畠地 廉輔(新患)
	午後		吉田 晴郎・畠地 廉輔 (診察 13:00 ~ 16:00)		
放射線科	午前	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏
麻酔科 (ペインクリニック)	午前	香月 亮 石川亜佐子	香月 亮 石川亜佐子		香月 亮 石川亜佐子
救急科 (8:30~17:15)		吉田 昌人 藤原 紳祐	吉田 昌人 藤原 紳祐	吉田 昌人 藤原 紳祐	吉田 昌人 藤原 紳祐

ご紹介いただく患者様につきましては可能な限り事前予約をおとりいただきますようにお願い致します。  
(当院の受付時間は午前 8 時 30 分~午前 11 時 00 分迄です。)

**内科系** 第2・第4木曜日はベースメーカー外来を行っています。  
毎週木曜日の午後(13時~14時)は禁煙外来(保険診療外)を行っています。(受付 14時~16時) ★予約制

毎週月・金曜日の午後は一般外来を受け付けています。(受付 14時~16時)

毎週火曜日の午後は乳児健診(完全予約制) ■第1・3水曜日の午後は循環器外来(受付 13時~16時) ★予約制

毎月第3木曜日の午後は内分泌外来(受付 13時~16時まで)

毎月第2木曜日、第3水曜日の午後は小児神経外来(受付 14時~16時まで) ★完全予約制

毎月第4木曜日の午後は小児アレルギー外来(受付 14時~17時まで) ★完全予約制

毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付時間 13時~15時) ★予約制

**小児科** ①一般外科②呼吸器外科③消化器外科④乳腺外科 ■毎週月曜日の午後は乳腺外来を行っております。(受付時間 13時半~15時)

ご紹介は整形外来宛でお願いします。救急患者については救急室にて対応しております。

**整形外科** 毎週火・木曜日の午後は、検査予約外来を行っています。

**泌尿器科** 每週月・木曜日の午後は母乳育児指導を受け付けています。(受付時間 13時 30 分~15時 30 分)

**産婦人科** 每週水曜日の午後は一般外来を受け付けています。(受付時間 13時~16時)

**耳鼻科** 每月第1・第3木曜日の午前及び毎週水曜日の午後は、補聴器外来を行っています。

**麻酔科** ご紹介は月曜日でお願いします。救急の場合はこの限りではありません。

**歯科** 入院患者さんで歯科診療の必要が生じた時は町内歯科診療所、窓口(宮原歯科医院 TEL43-0607)へ往診の依頼を行って下さい。

2011.10.1

**特殊診療のご案内**
**編集後記**

震災の関係で着工が遅れた救命救急センター、ヘリポートの工事が概ね10月末で完了する。ヘリポート建設を知ってかどりか今年度に入ってから、ヘリ搬送患者が急増している(近隣の公園に着陸して救急車で搬送している)。その数、半年で約20名、平成20年度1名だったこと聞くと驚くべき数字である。病院と隣接することによって、さらに救命率アップにつながればと期待している。

編集委員